

令和6年度 第7回政策推進会議報告

日 時 8月27日 14時45分～16時00分

場 所 WEB会議室

出席者 18人

1 次期尼崎市議会定例会市長提出予定案件について

総合政策局長から資料に基づき報告。

2 令和7年度予算編成方針について

総合政策局長から資料に基づき報告。

3 令和6年度施策評価結果及び令和7年度予算編成方針（令和7年度主要事業）に係る「市民意見聴取に係る施策の概要」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

総合政策局長から資料に基づき報告。

4 パートナースhip宣誓制度の拡充に係る「市民意見聴取に係る施策の概要」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

総合政策局長から資料に基づき報告。

5 空き家対策に関する条例等の改正に係る「市民意見聴取に係る施策の概要」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

都市整備局長から資料に基づき報告。

6 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

東教育次長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

- ・（市長）小学校で算数の成績が全国を超えたということ、この全国平均がすべてではないが、これはすごく大きなことである。そして、中学校での数学についても全国に並んだということ、これも尼崎では過去にないことである。市内の特定のクラスだけ取れば、これまでも当然あったことだが、全体としては、これまでどんなに頑張っても追いつかないという状況であった。これは間違いなく、教育委員会、学校の先生が様々な知恵を出して基礎学力の定着に向けて取り組んできた成果である。偶然上がるものではないと考えているので、まずは学校の皆さんに厚くお礼申し上げたい。また、こういったデータを分析することで見えてくる課題もあるため、引き続き工夫しながら取り組んでいきたいと考えている。

尼崎市の統計、様々な数値は大阪市に近似する傾向があると考えているが、大阪市はやはり算数も数学もまだまだ苦勞しているところがあるため、そういう意味でも、この学力面については、少なくとも尼崎に違う傾向が出てきた、これはやはり尼崎独自の取組の成果だと感じている。まずはこういった市内の学校の取組を市民の皆さんには知っていただき、またこの基礎学力が定着すれば、新たな課題にも取り組んでいけると考えているので、次のステップに進んでいくことを期待したい。

- ・（教育長）尼崎の教育はこれまでずっと学力向上が最重要課題であった。市長が教育長時代に取り組んでいたことがだんだん効果を上げているような状況であり、今回の結果を

受けて、尼崎も次の新たな段階にきたのではないかと考えている。これまで、小学校で成績が上がっても、上位層が中学校受験等で抜けてしまうため、中学校ではなかなか全国平均を上回るのは難しいのではないかなというようなご指摘も多くいただいていたところであるが、令和 3 年に小学校で全国平均に並んだ生徒が、今回中学生として受けて全国平均に並んだということは、小学校での取組が中学校でも引き続き連携、連動し、中学校でも学力の定着が進んできたと考えている。国語の読解力等についてはまだまだ課題として残っているため、下位層の引き上げ、上位層のさらなる引き上げについて、引き続き取組を進めていきたいと考えている。

7 その他

○危機管理安全局長から台風 10 号への対応について説明。（以下、質疑等）

- ・（市長）すでに準備いただいていると思うが、特に暴風雨に伴う停電も想定されるため、各部それぞれ必要な物資の準備等をお願いしたい。また、広報については、私を含め、積極的に情報発信していきたいと考えている。あと、避難部であるが、30 日の早朝に最接近となると自主避難所の開設や休校等について、前日に判断するか、当日に判断するかという問題があるが、やはり市民の皆さんが見通しを持って対応できるようにするには早めに判断することが大事だと考えている。夜のうちに方針を示すことも視野に入れながら、台風の進行状況を見ながら順次判断していけたらと考えているため、よろしくお願いします。

○危機管理安全局長から路上喫煙禁止区域の指定について説明。

○総務局長からオンライン窓口について説明。

○総務局長から本庁南館地下コンビニ跡地活用について説明。

○都市整備局長から尼涼祭について説明。

○都市整備局長から第 4 回本とお花とパンとコーヒーについて説明。

○消防局長から令和 6 年度熱中症救急搬送状況について説明。

○議会事務局から議場コンサートの実施について説明。

- ・（市長）最後に、今回正式に予算編成方針を示し、そういう意味では、年度の前半の大きな区切りがついたと考えている。この予算編成方針を踏まえて、後半の予算編成を迎えることになるが、各局、目の前の事業を単に拡充するだけではなく、しっかり課題を見つめたうえで、その課題を解決するための手段やアプローチに何が適切なのかというのを考えていただき、政策部や私たちに対して説明できるよう準備していただきたい。どうしても担当課、係だけだと、既存事業前提に考えてしまうところがあるが、そこについては局長、部課長という管理職の皆さんが少し大きな視野を持ちながら予算編成に向けて取り組んでいただきたい。

以 上